

# 火の用心

## 第4号

1995.8.10 高岡消防団第五分団発刊  
印刷 (株)モトヨシ美術印刷



高岡消防署

署長 高林 善博

去る四月に当署管内の本年度の「防火推進モデル地区」として、開発本町、木町の両自治会を指定させていただき向こう一年間にわたり、多彩な各種の火災予防施策を、住民の皆さんのご協力のもとに推進させていただきましたことになりました。すでに五月二十七、二十八日の二日間、署員が地区の各ご家庭を訪問し、火災の危険箇所をチェックする防火診断を終え、改修等の指示を受けられたご家庭がありましたら、若干の経済的負担をおかけすると思いますが、「安全はコストのかかるもの」というご認識の

もとに、すみやかに措置していただきますようお願いいたします。

ちなみに、高岡市の今年上半年の火災の概要は出火件数三十一件、建物焼損床面積一、一五〇㎡、損害額五六、〇〇〇千円。

火災種別では、建物火災が二十一件と全体の六八％であり、うち住宅火災は十件で四八％と約半数を占めております。

出火原因の主なもの、  
『放火』が五件、次いで、『たき火』『たばこ』『電気配線』が各四件で、配線のうち三件は絶縁劣化に依る車両火災です。この不況下、火災などに見舞われては再建は非常な困難を伴います。くれぐれも防火に関心を向けてください。

レイアウト  
小嶋 仁子



# 防火推進モデル地区に、開発本町と木町が指定されました

かけがえない家族の命と財産を守るために

## 防災、防火の基本は、一人ひとりの自覚

《防火推進の指定を受けて》

### 防火推進モデル地区 指定について

開発本町自治会  
副会長 川田 為真

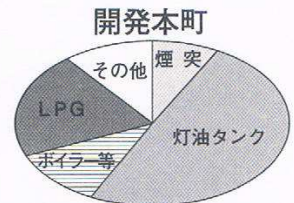
このたび、高岡消防署の方から、私達の町内、開発本町自治会を「防火推進モデル地区」に指定され、その期間は平成七年四月一日から平成八年三月三十一日迄の一年間の事です。この一年間を防火推進モデル地区として住民と消防機関とのパイプ役となりつとめたいと思っております。年間行事の予定と致しまして、防火診断、消火実験、町内消防訓練など数多くあるとの事です。先は消防署員の方々が町内二、三六世帯を防火診断され、その結果四九世帯、約一九%が改修が必要であるとの事、このように多数の家が危険個所の指摘を受け、私達も今後気を付けなければならぬと思っております。いかに今迄火について、おろそかな考えであったか思いおこされます。

又、去る六月七日夜に当町内



消  
1  
2  
3

### 防火診断の



《改修の必要な個所》

に(ボヤ)が起り、町内住民全員が肝つぶしであったかと思ひます。その出火場所は全く火の気のない所であり、放火でないかとの事です。その火事に付きましては、今だに原因が明白でありませんで、住民全員が不安であるかと思われまふ。あらためて火の恐ろしさを教訓と致しました。防火に対する正しい知識を身につけ、今後に備えたいと思ひます。

幸いにも七月三十日には、当町内にいざ火災が発生した場合に備えて、どのように対応するかを実際に消火器を使い、消火を實踐してもらつた消防訓練を行う予定であります。町内住民の方々一人でも多く出席して頂く為、現在町内の方々に呼びかけております。

最後に防火推進モデル地区に指定され、これを機に町民一人一人が気を付け、火災の起きない町内に致したいと思つております。

### 木町大火に想う

木町自治会  
会長 田中 庸雄

この度高岡消防本部より「防火推進モデル地区」に木町、開発本町が指定され両自治会は消防本部、消防第五分団の指導の許、様々な防火訓練等の企画に則り、両町民の防火意識の再確認、また町より「防火推進員」を選定、尚一層の意識の高揚を旨とし、企画施行されたのだからと思ふ。

防火について追想するに、未だ記憶にも新たな阪神大震災がある。この悲惨な災害の傷跡は未だに癒えてはおらず、この災害は地震に火災が相俟つた誠に最たるものであった。

木町も長い歴史の中で様々な被害災禍に見舞われ、百年余り前、明治二十四年五月十日午前十一時頃、民家の失火が折からのフェーン現象下の南西の強風が災いし、火は瞬間に燃え広がって大火となった。木町は高岡の物資材流通の拠点とした

### 防災、防火

※国民の防災活  
備蓄から懐中  
民に災害の備

◎成美校下には5-  
◆成  
◆こ

※災害  
24時  
で消

町づくりで繁華な町を形成し繁栄、民家百三十余軒が存在し、寛文五年に領家の神明宮を奉遷し、宝曆二年藩祖利長公の報恩のご祭礼に御書殿を創建し、明治十六年一月九日開校の期磨智小学校等がこの災禍で全焼した。一寸した油断、気の緩みが失火を招き、失火が大火となって民家七十八軒を瞬く間に焼失する火災は時には人心をも焼き尽くし、町勢をも大きく変転、壊滅する悲惨を招く実に怖く恐ろしい災禍である事を歴史の中からをも学び取る事ができる。この度木町、開発本町が「防火推進モデル地区」の指定に際し、両町自治会の人達と共に防火意識を再確認し、一人ひとりが防火意識を喚起、高揚に努め、諺の「マッチ一本火事の元」の言葉を心の戒めとし、両町全員が「防火推進員」と自覚し各々が自己の責任に於いて火の元を取り締まろう。

最後に消防関係各位に敬意と謝辞を表し、私の随筆と致します。

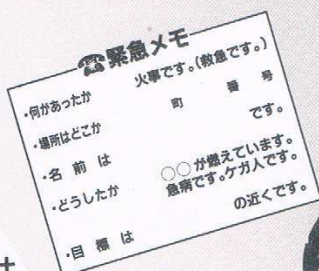


# BFC

## 子どもで防火の輪を広げよう

### 木町・開発本町で防火訓練と消火実験

### 通報は、まず『落ちついて119番』



### 訓練結果！

意外に自宅を明確に指示できない。  
日頃から目標を決めておきましょう。



防火、防災の意識確認の「○・×」クイズも行われた

は  
ックを抜いて  
ズルをしっかりと構え  
ンドルを強く握る

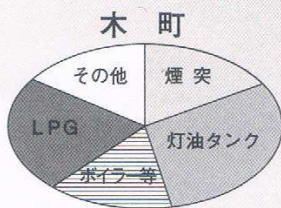
### 果について

#### 防火診断をした家

1帯 (82%) / 118世帯 (70%)

#### 改修が必要な家

1帯 (18%) / 48世帯 (41%)



《改修の必要な箇所》

の必要な家が多く見られます。

### は何よりも自治体の協力

防災白書(平成7年度)

は、避難場所の行動や食料、飲料水の、ラジオなど緊急持ち出し品まで、国促しています。

### の避難場所があります

い学校 ◆志貴野中学校 ◆成美公民館  
り養護学校 ◆青年の家

(H5. 高岡市防災計画から)

家族内連絡体制の確保はできていますか？  
以内は行政に頼れないのが現状です。地域住民の手  
救援、避難活動を行う気構えが必要とされています。



◇成美小学校



### 小さなあやまち大きな火事

成美小 5年 みやしげ 友香

私は五歳の時、一歩おそかったら大火事になっていた、という火あそびを家でしました。そのころ小さな火がキレイに見えて、ついつい火あそびをやっていました。ある日、なかなか火が消えなくなりました。こわくなってゴミ箱に入ると、みるみるゴミがもえていきます。大変だと思って、「火が消えないよう。」と大声でいうと、下にいたお父さんが二階にきて、まずゴミ箱を庭に出して、水をザッとかけてやつと火が消えました。そしてお父さんは、私をぶちました。「火事になったら、なにもかもなくなるんだぞ。」とひどくしかられました。物をやきつくだけでなく、そのろしさがわかりました。その時私は本当に火事のおそれより大切な命さえもうばってしまうということも、それより大切な命さえもうばってしまうということも、私はそれから火あそびはぜつたいしなと思いました。BFCの入団式。私が今まで火事にならないようにと思ってきたことが生かされるように、地いきの人々に火さいまぼうをよびかけ、知しきを身につけることで火事が少なくなればな、と思います。だからこれから大人になってもずうつとBFCをほこりにしていこうと思います。

1995年(平成7年)7月19日(水曜日)

新防災基本計画

### 震災「復旧」に課題残す

#### 2日目を降、行政責任不明

震災発生から10年が経過する。被災地の復興は、行政の責任が不明確なまま進んでいる。被災者の生活再建は、行政の責任が不明確なまま進んでいる。被災者の生活再建は、行政の責任が不明確なまま進んでいる。





# ★ ★ ★ 栄ある表彰 ★ ★ ★

H7  
1月6日 出初式

◇無火災表彰（8カ月間）第5分団（成美地区）

- ・20年勤続表彰（班長）加納 満
- ・10年精勤表彰（団員）上田 勝
- ・5年精勤表彰（団員）山本 邦雄

H7  
3月19日 春期訓練

◇消防庁長官表彰

永年勤続功労章（分団長）沙魚川 弘

◇富山県知事表彰

精勤章（副分団長）東野 幸二

◇日本消防協会長表彰

勤続章（部長）江淵 司郎

◇富山県消防協会長表彰

勤続緑花章（班長）加納 満

勤続銀章（団員）上田 勝

勤続銀章（団員）橋本 米暁

◇高岡支部長表彰

優良表彰（団員）山本 邦雄

## 防火推進員

《開発本町》

《木町》

橋西吉吉橋菅畑今橋炭畑能中前大林東佐池	本田田本野野村本山野田村田坪野野崎	義正紘開卓達吉義英克す誠千哲隆一	正勝一喜之利春雄夫美勲子一子悟雄夫夫勉	川吉吉波橋橋北蘆橋今青石森金山佐堀大川	田田井岡本本村田本村山田田沢崎伯窪田	為豊武松米規幸哲和義洋孝一敏右	興久清雄男暁一正吉治男博徳一広夫昭敏門	田井小神堀島松常飯帳奥小佐今	中山杉立田永谷坂山田川野村	庸敏貞義達光良辰正	雄忠栄夫一巳美弘勝雄蔵勇男雄	室能村森熊名吉古堀山苗内矢	崎勢上田木畑田川本加原田	信良勝耕忠由健秀孝敏信	之一治郎績治正二男雄夫一正
---------------------	-------------------	------------------	---------------------	---------------------	--------------------	-----------------	---------------------	----------------	---------------	-----------	----------------	---------------	--------------	-------------	---------------

### ◆ ◆ ◆ ◆ 編集後記 ◆ ◆ ◆ ◆

昨年度の東京消防庁の防火防災訓練の実態調査では、消火器ひとつみても、一度でも訓練した人とそうでない人とでは、いざという時の反応がまるで違うことが実験でも証明されています。調査でも訓練の必要性を認める人が年々増えており、まして阪神大震災の後では誰もが必要だと感じているでしょう。

しかし一方では、関心の高い人と無関心な人との格差が著しくなっており、必要性はわかっていても、大半の防災無関心層を訓練に参加させることは難しいものです。全ては一人ひとりが自分の身体を守り、家族の生命・身体と財産を守るという自覚と行動から始まるのではないのでしょうか。それが地域を守ることに繋がります。

私たち住民一人ひとりが、孫やひ孫のために、火災や巨大地震に対抗できる百年後の地域像を描き、百年をかけての整備が今から開始されなければならない時です。

班長 幸正 哲